パネル発表：アーカイブズと災害－東日本大震災から 5 年を迎えた日本の対応－

「東日本大震災と原子力発電所事故からの文化財保全への取り組み
～震災から五年を経過して～」

三瓶　秀文
福島県富岡町教育委員会　主任学芸員

「日本の国立公文書館による被災公文書等への対応－被災公文書等救援チームを事例に」

筧　雅貴
国立公文書館　総務課　企画法規係長

【要旨】

海に囲まれた火山国である日本は、地震や津波、台風、豪雨などの自然災害の脅威にさらされている。記録及びアーカイブズを災害から守ること、そして災害による記録及びアーカイブズの被害を最小限にとどめ復旧を図ることは、日本のアーカイブズ関係者がこれまでも取り組み、また将来にわたって取り組み続けなければならない重要な課題である。中でも 1995 年の阪神・淡路大震災、2011 年の東日本大震災の 2 度の大震災は、アーカイブズ資料に深刻な被害をもたらし、その後の災害対応に大きな影響を与えた。近年では、集中豪雨による文書の水損という新しいタイプの被害も増えている。その結果、日本では、未曾有の災害による地域の記憶の喪失の危機を乗り越え、未来の災害に備えるために、国、地方公共団体、大学、市民団体、企業などのあらゆる個人・団体が、復旧技術、文書管理、情報発信、文化の継承等のあらゆる分野で、これまでなかったような協力関係を構築する試みが重ねられている。

本パネルは、国、地方公共団体、研究機関の代表 3 名がパネリストとなって理論的・実務的な見地から発表を行い、日本のアーカイブズにおける防災及び災害対応の現状を世界のアーカイブズ関係者と共有し、国際的な連携の可能性を探ることを目的としている。発表で取り上げるトピックスには、国立公文書館よる地方自治体と連携した被災公文書支援の取組、日本全国にできたボランティアベースのアーカイブズ・レスキュー活動のネットワーク、津波の多大な被害を受けた三陸地方の震災後 5 年の歩み、震災の記憶の継承に関する研究、東日本大震災で被災した町の地域資料継承を目的とした地方自治体と大学の連携等が含まれる。

【講師略歴】

さんぺい・ひでふみ　福島県富岡町教育委員会主任学芸員。1979 年福島県富岡町生まれ、2002 東北学院大学文学部史学科卒業。2003 より富岡町へ勤務。2004 より学芸員として現職。

かけひ・まさき　独立行政法人国立公文書館総務課企画法規係長。2010 年、九州大学大学院比較社会文化学府博士後期課程単位取得退学（国際関係論）。2011 年から国立公文書館本館に勤務。総務課受入管理係長などを経て、2016 年より現職。評価選別業務や歴史公文書等の受入事務の総括業務に従事。また、国立公文書館被災公文書等救援チームの庶務も担当。

たかしな・まき　人間文化研究機構国文学研究資料館プロジェクト研究員。青木睦・同館准教授の代読。

ICAソウル大会

「東日本大震災と原子力発電所事故からの文化財保全への取り組み ～震災から五年を経過して～」

震災からの文化財レスキュー

震災前の富岡町の桜並木

歴史資料の活用「地域を知る手がかり」

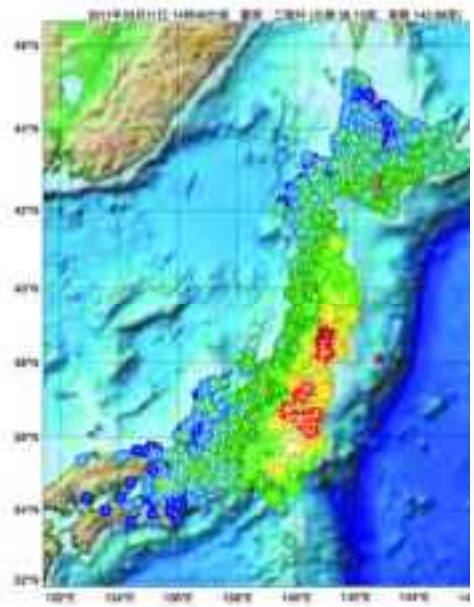
津波で被災した富岡駅「震災の記録」

文化財レスキューされた資料の整理作業

福島県双葉郡富岡町教育委員会
主任学芸員　三瓶　秀文

東日本大震災の状況

マグニチュード9.0
死者・行方不明:25,000人以上
地震・津波、そして福島では原子力発電所の事故が発生



津波と原子力発電所事故

東日本大震災によって発生した津波

東日本大震災の発生とそれに伴う、津波。そして、東京電力福島第一原子力発電所の事故。

この震災において、福島県はこの三重の被害により、当初、福島県内では160,000人以上の避難者があったが、未だ帰還できずに避難生活を続ける住民が未だ90,000人以上に上る。

その多くは、事故のあった東京電力福島第一原子力発電所の事故の影響による避難指示により故郷を離れて仮の住宅での生活を続ける者である。

東京電力福島第一原子力発電所の事故

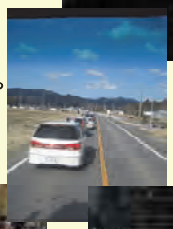
1　震災発生とその後（富岡町の動き）

地震当日の夜（2011.3.11）
被害状況の把握と炊き出し

①津波の状況

②避難の開始

原子力発電所の事故の影響から
避難のため西へ向かう車列
（2011.3.12）



③避難所（川内村）

震災当初の避難所（2011.3.12～2011.3.16）

④避難所（郡山市）

川内村と合同の郡山市内の避難所
（2011.3.16～2011.8.30）

事故から5年が経過した現在、避難指示の解除が行われたり、解除の時期が示される自治体がある一方で、多くの住民が現在も仮設住宅に住んでいる。

住民は現在、仮設住宅から町外に整備された災害公営住宅へ移動している状況。

富岡町では、帰還困難区域・居住制限区域・避難指示解除準備区域の3つの放射線量によって分けられた避難指示区域が存在するが、帰還困難区域を除いて2017年4月の帰還を目指している。

応急仮設住宅

復興公営住宅

富岡町文化交流センター

複合館（会議室・生涯学習施設・ホール・図書館・資料館）としての機能を集約した施設として、平成16年10月竣工。

事故のあった東京電力福島第一原子力発電所から約10kmに位置する富岡町文化交流センターには施設に併設された資料館の収蔵庫があり、町内の歴史資料が多く収蔵されていた。

地震被害当初の収蔵庫の状況

平成23年4月22日に政府によって設定された事故のあった発電所から半径20km圏内の「警戒区域」。原子力発電所の事故の放射線の影響で立ち入りが制限される状況下でも、人命救助や捜索・住民記録の持ち出しなど公益的な目的に限って立ち入りを行うことが可能であった。

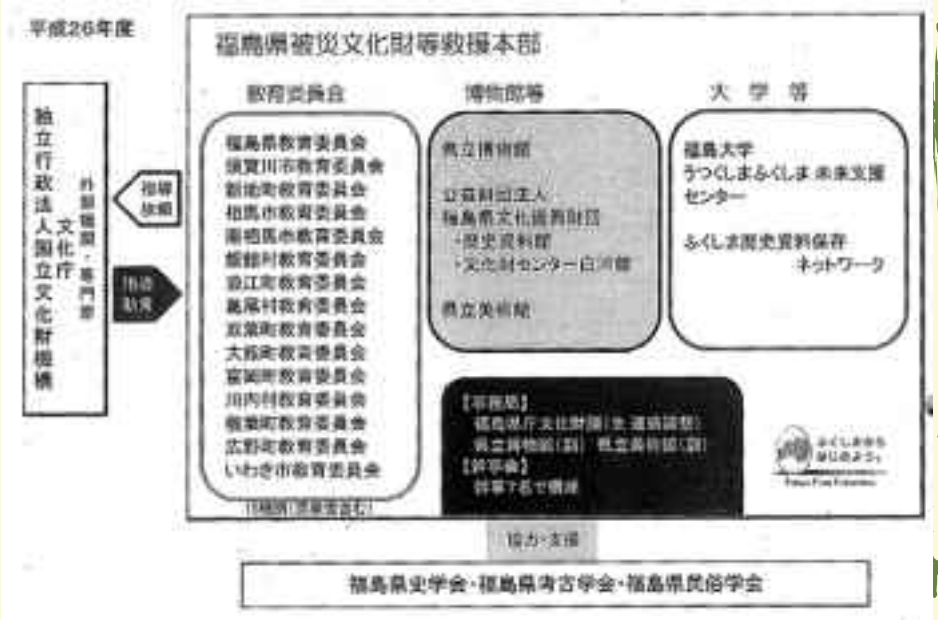
写真は公共施設の被害状況を把握する際に撮影したもの。棚に収納されていた土器などが落下している状況。

放射線の影響で分けられた地域からの文化財レスキューの手法が整う2012年5月までこの状況が続いた。

福島県被災文化財等救援本部（H24～）

2012.5月より国・国関係機関・福島県と被災した市町村が連携して被災した文化財等の保全に取り組む福島県被災文化財等救援本部が設置された。

この枠組みのなかで被災した文化財や放射線の影響により管理不能となった域内の文化財の搬出作業が動き出した。



2　文化財の救出作業の手法の確立

線量計測（カード作成）

梱包作業

運び出しを待つ資料

警戒区域外へ搬出

被災文化財等救援本部の設置と行政所有文化財の搬出

2012.5月に設置された福島県被災文化財等救援本部では、国・国関係機関・福島県・被災した自治体が協力して警戒区域からの文化財保全を行う体制を構築した。

作業はまず歴史資料に付着した放射線量を記録し、1,300cpm以下の資料を対象に警戒区域の外へ運び出すことに始まり、資料が移動するたびに放射線量を記録し、警戒区域外に設置された仮収蔵施設に仮保管を行った。

No.

資　料　名	寄贈　寄託		
所　有　者			
持出年月日	平成24年　　月　　日		
持出時線量	①	cpm	（　　）
	②	cpm	（　　）
	③	cpm	（　　）

保　管　履　歴

施　設　名	年　月　日	備　考（cpm）
	～	
	～	
	～	
	～	
	～	
	～	

富岡町歴史民俗資料館

カード（線量計測履歴）とGM式サーベイメーター

※資料の移動毎に線量を記録

①運び出し作業
※警戒区域内での作業は福島県被災文化財等救援本部で実施
②旧相馬女子高校への搬入
※一旦、仮保管と簡単な整理作業を旧学校校舎を利用
③旧相馬女子高校への搬入
※搬入作業は福島大学の学生も参加
④旧相馬女子高校への搬入
再測定（バックグラウンドを考慮した線量の再計測）

3 仮保管施設の設置
仮保管施設
（福島県文化財センター白河館　敷地内）

整理作業の概要

照合
- 財団リストと搬入資料の照合

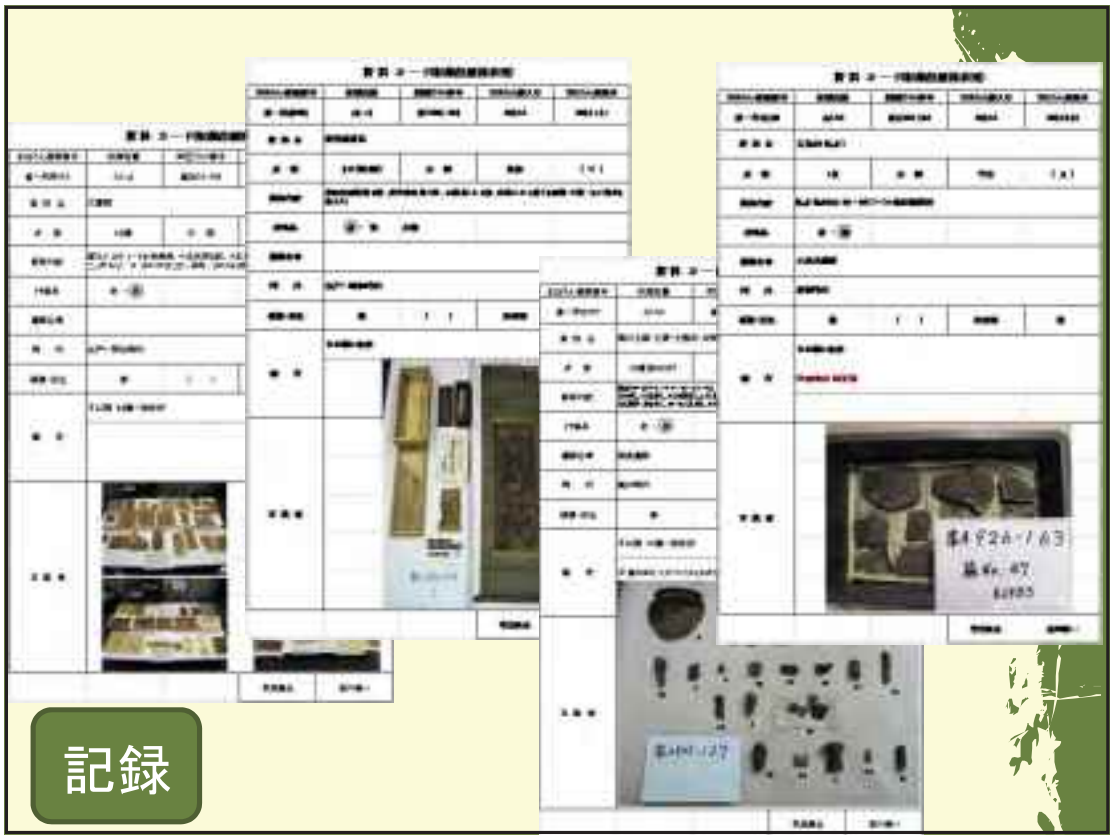
点検
- 埃・ゴミ等　⇒　クリーニング
- カビ・虫害　⇒　報告・指導

分類
- 史料（古文書・公文書・書画等）
- 民俗（道具・衣料・仏像等）　● 考古

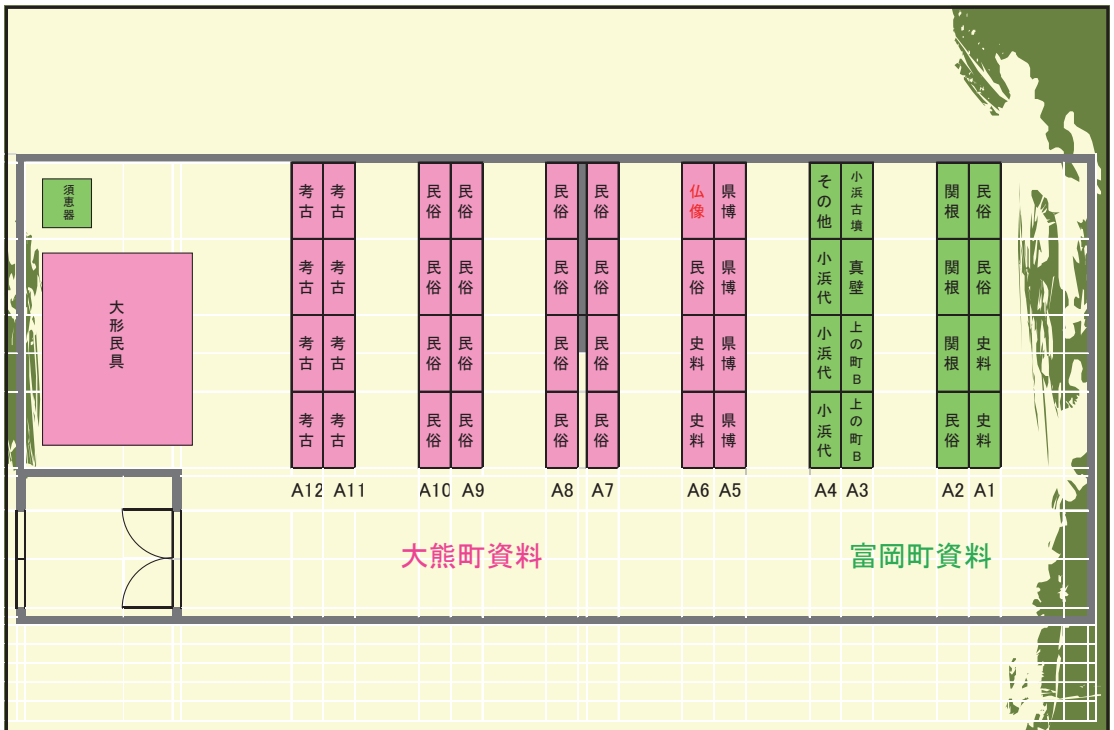
記録
- 配架用資料カードの作成

配架
- 町単位で収蔵
- 史料 → 民俗 → 考古の順序で配架

クリーニング


記録

配架



救出資料配置図（Ａ棟）

4　保全された文化財の活用と民間に眠る歴史資料の保全の問題

保全された資料をどう活用するか、民間の歴史資料をどう守るか？

富岡町は、保全された歴史資料を町民に積極的に公開することで地域と人々のつながりを感じる機会を多く提供することに努めている。原子力発電所の事故が大きく取り上げられてしまうことが多いが、事故以前から続いてきた地域の歴史や文化はその地域の人々にとってのアイデンティティを確認できるものとして大きな役割を果たす。避難生活の続く状況下では、特にその役割が大きい。

また、行政が所有する文化財だけでなく町のなかに眠る多くの民間の歴史資料についても富岡町は積極的に保全を行っている。行政所有の文化財の搬出作業の終了した2015年6月に富岡町では「富岡町歴史・文化等保存プロジェクトチーム」を組織し、各課を横断した職員有志により歴史資料の保全に当たっている。

○仮収蔵施設の公開

2014　5/18　福島民友

2014　5/18　福島民報

①≪被災ミュージアム再興事業（行政管理の文化財救出事業）≫　福島県被災文化財救援本部の取り組み

事業の意義＝①公有文化財の速やかな運び出しによる「公」としての文化財保全
②民間所有文化財着手への前提をクリアした（富岡町にとっての追い風）

福島県被災文化財等救援委員会の発足（H24.5）により福島県内の警戒区域内の文化財レスキュー事業が開始
（事業開始以前は、浜通り自治体の文化財担当者が、災害対応を行いながら個別に保有資料を管理し、福島県に広域的な支援の枠組みを要望）

●福島県被災文化財等救援委員会の構成
幹事：福島県教育委員会
福島県立博物館　　福島県立美術館
福島大学　　福島県文化財センター白河館
福島県歴史資料館　　ふくしま歴史資料保存ネットワーク
構成メンバー：須賀川市、浜通りの被災自治体の教育委員会

≪支援＝専門的知見・人的支援・予算措置≫

国（文化庁）
国専門家（国立文化財機構）

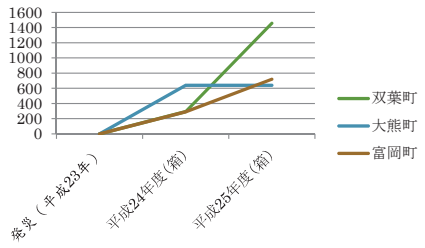
≪主な活動≫　～警戒区域（当時）内の文化財を保護～
平成24年度より、行政が管理・所有する「文化財」の救援を国（文化庁）、国専門家（国立文化財機構）の指導のもと実施
・警戒区域からの「搬出マニュアル」の作成
・線量の計測→梱包→搬出→仮置き（旧相馬女子高）→仮保管施設（福島県文化財センター白河館敷地内）
・活用（展示会など）

≪実績≫　平成25年度末までに富岡町は完了

町資料館収蔵庫の搬出資料数

	平成24年度（箱）	平成25年度（箱）	残り点数（箱）	合計	進捗率
双葉町	293	1,164	100	1,557	94%
大熊町	639	0	1	640	99%
富岡町	290	428		718	100%
計	1,222	1,592	101	2,915	98%
楢葉町	0	0	800	800	

平箱換算（＃32型テン箱：L600×W440×H150）を標準換算とする。
また、民具等の大型資料は1点1箱換算とする。



②富岡町独自の取り組み～第三の道の実現、心の復興に向けて

«富岡町歴史・文化等保存PTの取り組み»

①歴史資料を含む**地域の営みを物語る資料**の保全（古文書、絵図、写真、ノート、帳簿、民具など）

⇒ **1. 富岡の地域性を子どもたち・後世に伝承**

2. 町民が古里への誇りを取り戻すための材料づくりに向け

〈古代以来、双葉地方の中枢・拠点として役割を担ってきた富岡地域の成り立ち・地域性を伝える〉

②東日本大震災・原発災害によって生じた「震災遺産」の保全（ミチ美容室の時計、被災パトカー、JR富岡駅物品＝県立博物館と連携）

⇒ 1. 被災地の正しい情報や教訓を世界に発信

2. 風化を防ぎ、被災地として問題意識を発信

3. 復興に向け前を向く富岡町は、地域性を大事に、過去の経験を踏まえて再生・発展するという意思表示

〈富岡の地域史のなかに複合災害を位置づける〉

「なぜ原発が双葉郡に誘致されたのか」「原発は正負の両面で地域に何をもたらしたのか」「原発災害により地域はどのように変質させられるのか」など、原子力発電所とともに歩んできた地域だからこそ発信しなければならない諸状況の説明に有効な資料を保全・活用する

《発信事業》

☆関係市町村との連携で企画展を開催（郡山市「内陸と沿岸の交流史」2015.1、いわき市・いわき市立総合図書館特別展示2015.5）

☆震災以前の街並みを模型で保存、これからのまちづくりに向けた模型を作成し古里教育等で活用

☆新編町史の編纂を視野に、町域史の叙述材料を収集

《H27年度の新たな取り組み》

☆町内の土蔵・煉瓦蔵・古い建物の所在地図作成に着手　⇒①地域資料の所在先の目途をリスト化　②富岡の地域性を建造物の視点で伝える

☆町内の庚申塚、地蔵、石碑など石造物の所在地図作成　⇒①町民帰還後の生活のなかで重要な「文化的要素」の担保　②被災状況調査の実施

◇民有地域資料のレスキューと発信（連携＝福島大）

▼地域性の保存

・震災以前の富岡地域の成り立ちを証明する資料を保全

・富岡地域と周辺地域との関係を資料をもとに叙述、発信

▼民間所有で地域を物語る資料の救出作業

・復旧、復興事業の中で取り壊される建物からの救出

・既刊町史作成時に行わなかった、徹底した歴史の料所在調査

・平成の写真までを含め、地域を物語る様々な資料の一元保存

・整理作業から具体的な活用への準備に着手（目録化・公開）

▼救出資料の展示・活用

・救出→展示＝発信の継続・・・「地域を守る」姿勢を町民に発信

・学校などで「ふるさと教育」教材として活用（実績あり）

・生涯学習機会（地域講座・歴史講座など）のテキストに活用

◇資料救出の先にあること→富岡地域の歴史を描く

→心の復興の実現

①地域史の描き直し＝町史編纂＝後世への継承

②第三の道＝ｱｲﾃﾞﾝﾃｨﾃｨ肯定＋古里とのつながり

③地域の成り立ちを内外に発信＝相互理解の深化

全ての基礎となる資料保全と整理作業

◇具体的に行うこと（協定２条の１）

①所在確認調査＝町内の民家や蔵を調査

②整理作業＝何が何点あるかなど概要の調査・整理

③研究・発信＝9/5の例、報告書などの作成、研究への協力、その他研究・発信に関すること全般

富岡町歴史・文化等保存プロジェクトチーム（発足：2014.6.19）

歴史文化等保存プロジェクトチーム設立

※（平成27年度までの活動実績）

組織：副町長をトップ（主任）に、１６人で構成（当初は１５人）
【幹部】教育総務課長、企画課長、産業振興課長、生活支援課長、企画課長補佐
【実働】主任学芸員（生活支援課兼務）、学芸員（企画課兼務）、総務課員、生活支援課員３人、教育総務課員、健康福祉課員、産業振興課員２人

設立日	2014.6.19	
実働員	10人	
活動実績	救出作業	13家（14回）
	整理作業	平成27年度は4回実施

- 必要性が生じた際に招集
- 日程調整可能な職員のみ参加
- 救出作業は町内
- 整理作業は郡山市内の役場事務所

（任務）
第2条　歴文保存ＰＴは、富岡地域が自立的に続けてきた生産活動への具体的な考察を行い、その成果をまとめて町民を始め国内外に発信する。また資史料調査や資史料救出及び資史料整理・保存など必要な庶務を担い、地域の歴史・文化の保存を図る。

①地域性の保存　②町民のｱｲﾃﾞﾝﾃｨﾃｨの担保　③つながり維持の材料に

歴史的価値と地域的価値という概念

地域資料レスキュー（歴史資料・民俗資料など）

	資料	点数	保全時期	保全地区	資料内容	保管場所
1	O1家（整理済み）	5800	2014/7/24	中央商店街	近代～現代・商家文書、行政区文書ほか	学びの森
2	O2家（整理済み）	50	2014/10/2	小浜宇中央	近世～近代・家文書（往来手形など）	学びの森
3	諏訪神社（整理中）	未(500)	2014/11/18	本町西	近世～現代・神社関係史料、獅子頭、刀剣ほか	学びの森
4	I1家（整理済み・計測中）	2000	2014/12/2	上手岡	近世～近代・家文書（日記など）、甲冑など	学びの森
5	S1家	未(20)	2015/3/26	上手岡	近代～現代・書籍ほか	学びの森
6	S2家（整理済み・計測中）	未(100)	2015/5/26	小良ヶ浜	近代・家文書（和算関係史料）ほか	学びの森
7	S3家	未(50)	2015/6/24	大菅	近代～現代・写真、大工道具ほか	学びの森
8	E1家	未(20)	2015/8/12	上千里	近代～現代・家文書（書簡ほか）	学びの森
9	H1家（整理中）	未(500)	2015/8/13	上郡山	近世～現代・家文書（書簡、写真、書籍ほか）、民具	学びの森
10	M1家	未(20)	2015/9/7	下千里	現代・民具（大工道具、農具ほか）	学びの森
11	Y2家	未(50)	2015/9/9	日向	近代～現代・家文書（従軍手記、写真ほか）	学びの森
12	S3家	未(200)	2015/11/25	中央商店街	近代・商家文書、消防団関係写真、民具ほか	学びの森
13	M1家	未(50)	2015/12/24	岩井戸	近代（山仕事道具）	学びの森
14	O1家（2回目）	未(10)	2016/2/5	中央商店街	近世～近代・商家文書ほか	学びの森

プロジェクトチームの活動により（2014～）

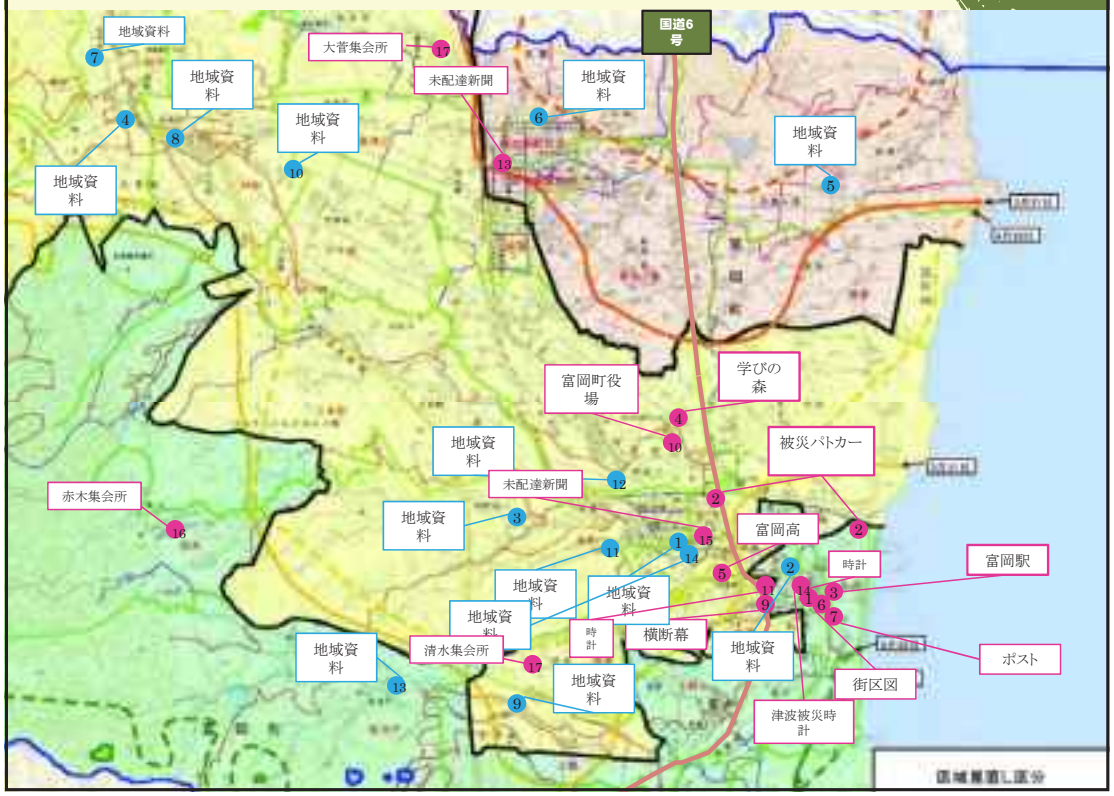
地域の歴史資料
約10,000点の収集

震災遺産保全（富岡町歴文PT・ふくしま震災遺産保全PJ）

	資料	点数	保全時期	保全地区	含有情報	保全・保管
1	ミチ美容室時計	1	2014/12/10	富岡駅前	電源喪失時間／津波被災／原子力災害／被災地ツアー	学びの森
2	双葉31号車（被災バトカー）	1	2015/6	仏浜地区	津波被災／原子力災害／官民連携保全	岡内東児童公園
3	JR富岡駅関連資料（駅名板、改札、電光掲示板など）	14	2015/3/5	富岡駅	津波被災／原子力災害／仮置き場／復興まちづくり	県立博物館
4	災害対策本部関係資料群（ホワイトボード、原災本部FAX、ガスマスク、炭化おにぎりなど）	不明	予定	学びの森	災害対応／役場の動き／避難所／電源喪失／原子力災害／全町避難／経年	現地（県博・町PTで記録済み）
5	富岡高校関連資料（体育館照明、ラケット・シャトル、卒業式DVD、学園祭資料ほか）	110	2015/10/21	富岡高校	避難所／地震／建物構造／地域資料	県立博物館／学びの森
6	津波被災地区の街区地図	1	2015/1/15	富岡駅前	津波被災／原子力災害	県立博物館
7	津波被災郵便ポスト	1	2015/3/5	富岡駅前	津波被災／原子力災害	県立博物館
8	桜まつりポスター	10	2014	学びの森、富岡町役場ほか	原子力災害／地域資料	県立博物館／学びの森
9	「富岡は負けん」横断幕	1	2014	月の下交差点	原子力災害／地域資料	県立博物館
10	役場関連資料	200	2015/9/9	富岡町役場	原子力災害／地域資料	学びの森
11	しがり理容室時計	1	2015/10/21	小浜宇中央	電源喪失時間／原子力災害	県立博物館
12	新聞（福島民友、福島民報、朝日新聞＝約4年6ヵ月分）	不明	2015/11	避難先（郡山市）	原子力災害／避難生活	学びの森
13	未配達新聞	30	2015/11/16	夜ノ森北	原子力災害	学びの森
14	津波被災時計（電池式）	1	2015/11/29	富岡駅前	津波到達時間（第2波）	学びの森
15	未配達新聞	300	2016/1/13	稲元新聞店	原子力災害	学びの森
16	赤木集会所時計	2	2016/1/13	赤木集会所	地震／原子力災害	学びの森
17	大菅集会所資料（時計、行政区旗ほか）	5	2016/1/28	大菅集会所	地域資料／原子力災害	学びの森
18	清水集会所資料（総会資料、街区図、地域写真ほか）	200	2016/2/5	清水集会所	地域資料／原子力災害	学びの森

震災に関わる資料
約1,000点の収集

保全済み地域資料・震災遺産の分布状況（富岡町）



『広報とみおか』平成27年8月号（歴史資料保全の呼びかけ）

富岡町と福島大学との歴史・文化等保全活動に関する協定
史料整理は福島大の学生・教員が協力支援

歴史資料・地域資料の活用

富岡町立小中学校三春校

おだがいさまセンター

企画展「内陸と沿岸の交流史」 郡山市と共催

企画展「富岡町の成り立ちと富岡・夜の森」

4　歴史的災害としての震災の記録

町民が掲げた国道の横断幕「富岡は負けん！」

富岡町文化交流センター（会議室）　富岡町の災害対策本部

富岡町の震災の記録
避難誘導中に津波で被災したパトカー（双葉31号車）

PM2:46頃に停止した電気式の時計（地域の電源喪失の時間）

津波で被災した3次元レーザースキャナでの
駅舎の解体前の記録

津波被災後

駅舎等の解体

駅の記録資料の収集

駅の空間の記録

MREALシステム（CANON）：仮想空間を等倍で体験することが可能
東北大学総合学術博物館にて

epilogue

地域・ふるさと（富岡町）を取り戻すために…

富岡町には、全長2.5kmにも及ぶ桜並木があり、春には桜のトンネルが出来あがって町のシンボルとなっていました。1000年前に地域の開拓の発端として記念に植樹された桜は、地域の人々の手によってその本数を増して管理されてきました。

毎年、春には多くの人々が集まってお祭りが開催され賑わっていました。

富岡町は、東日本大震災による地震と津波、そして原子力発電所の事故から復興を目指して2017.4月より住民の帰還を目指しています。住民にとっての震災前までの暮らしを確認することは、その地域で暮らしてきた人々によって培われてきた歴史や文化を再確認することに繋がります。

過去を検証し、歴史的災害をどう乗り越え、復興を遂げるのかまでを記録して地域の発信として繋げること、そして次代へと地域の記録をつなぐことを一人の「地域」の歴史資料を扱う担当者として考えています。

また、桜のもとに人々が集まり賑わいを取り戻せるように、そして次代へ「地域」をつなぐために。